

平成 28 年 10 月 25 日

平成 28 年度教育改革国際シンポジウム
いじめを生まない学校づくり
ー第 3 回いじめ問題国際シンポジウムー

国立教育政策研究所では、このたび、第 3 回いじめ問題国際シンポジウムを開催することとなりましたので、お知らせします。

1. 趣旨

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターでは、「いじめ追跡調査」をはじめ、いじめに関する調査研究を実施しており、併せて海外の研究者との国際比較調査などの共同研究を実施しています。さらに、「いじめ問題国際シンポジウム」を 1996 年、2006 年と 10 年おきに開催してきました。前回から 10 年目に当たる本年、第 3 回目のシンポジウムを開催します。

過去 2 回のいじめ問題国際シンポジウムにおいて、諸外国では、暴力を伴ういじめが問題視されているが、日本では、暴力を伴わないいじめの深刻さについても問題視されており、単純に国際比較できない現状が明らかになりました。

このことを踏まえ、今回のシンポジウムでは三部構成で、日本の特異性を分析するとともに、日本及びオーストラリアのいじめの未然防止に関する取組を紹介し、それらを踏まえて、各国の今後のいじめ対策の在り方について討論します。

2. 日時

平成 28 年 12 月 4 日（日） 13:00～16:30

3. 会場

文部科学省講堂（東京都千代田区霞が関 3-2-2 中央合同庁舎第 7 号館東館 3 階）

4. 登壇者

滝 充（国立教育政策研究所 総括研究官）

中野 澄（国立教育政策研究所 総括研究官）

アントワネット・ヘツラー教授（スウェーデン）、

フィリップ・スリー教授、バーバラ・スピア研究主任、グレース・スクシピエッツ講師（オーストラリア）、

ジョナサン・コーエン全国学校風土センター所長（アメリカ）

5. プログラム

第一部 暴力の少ない社会におけるいじめ スウェーデンとの比較調査から

暴力犯罪の少ないスウェーデンで行った国際比較調査に基づき、暴力を伴わないいじめが多いという日本の特異性が、暴力犯罪が少ない社会に根ざすものなのか、日本の文化や社会に根ざすものなのかについて検討。

第二部 いじめを生まない学校づくりの試み 日本とオーストラリアにおける実践から

いじめの未然防止策として、社会性の育成に力を入れているオーストラリアの取組と、居場所づくり、絆（きずな）づくりをキーワードに魅力ある学校づくりを進めてきた日本の取組を紹介。

第三部 パネルディスカッション いじめを生まない学校づくりの可能性

学校改善に力を注いでいるアメリカの研究者を加えた4か国の研究者により、日本や海外の学校が、今後力を注ぐべきいじめ対策の在り方について、シンポジウム形式で議論。

6. 参加申込み（一般）

インターネット申込み：本研究所 HP (<http://www.nier.go.jp>) → 「報道・イベント」
→ 「イベント情報」 → 平成28年度教育改革国際シンポジウム
申込専用アドレス：sympo2016@omc.co.jp

FAX申込み：チラシ裏面の「参加申込用紙」により03-5362-0121へ送信

7. 取材申込み

当日の取材を御希望の際は、社名・氏名・連絡先等を平成28年11月25日（金）18時までに、scenter@nier.go.jpへメールにて御連絡くださるようお願いいたします。その際、撮影方法（録画又は写真）及びぶら下がり取材の希望等を確認させていただきます。

【お問合せ先】国立教育政策研究所

生徒指導・進路指導研究センター総括研究官 滝 充

電話：03-6733-6885

生徒指導・進路指導研究センター企画課長 濱 由樹

電話：03-6733-6879

生徒指導・進路指導研究センター企画係長 岩城由紀子

電話：03-6733-6880